

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
◇生徒アンケートから 「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている」83.8% 「疑問や課題を解決するために、端末を使って自分なりに調べようとしている」85.6% 「学習の中で端末を使うことは、勉強の役に立つと思う」87.5% 「情報の正しい活用の仕方を考えて端末を適切に取り扱っている」95.2% という実態が確認できた。	◇生徒アンケートから 「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している」62.8% 「自分で計画を立てて勉強している」55.9% 「授業以外で端末を使うときは、時間が長くないよう、使う時間の長さを自分で決めている」59.5% という実態が確認できた。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
◇自己の固定概念にとらわれず、人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直す生徒や、端末を使う活動で友達の意見を進んで知ろうとする生徒の比率が高い。しかしながら求められなければ自分の意見を進んで発言しようとする（端末使用時も含む）生徒の比率は高くない。自己肯定感を感じ取れるような場の設定や実践が重要である。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自己の興味関心を大切にしながら学習に主体的・能動的に取り組む力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	◇全教科2期制にともない定期試験中心の評価から、より各教科の特性を生かし柔軟かつ多面的な評価につながる授業実践への移行 ◇行事の面でより課題探究的な要素を深めた新しい行事（総合発表会）の実践 ◇ICT機器の校内ルールを改定し、より家庭での学習との結びつきを深め、また小中統一されたルールの中で、義務教育9年間に連続性があるものとする	◇自律心を育てるためのキャンペーン活動の充実 →主に学年の日常生活におけるさまざまな課題をテーマとした点検活動を各係で検討し、分担・実施する。 ◇自分たちの生活を振り返る場の設定 →全学級共通して短学活におけるリフレクションの継続 →学期ごとに学年単位で集会を行い、学級単位・係単位でのリフレクションの実施

〈本プログラムの実行に向けて〉

